

公開実用平成3-8016

⑩日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U)

平3-8016

⑬Int.Cl.

B 60 J 3/00
B 60 R 13/08
F 16 B 47/00

識別記号

厅内整理番号

A 7816-3D
8920-3D
A 6916-3J

⑭公開 平成3年(1991)1月25日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全頁)

⑮考案の名称 サンバイザの構造

⑯実 願 平1-68800

⑰出 願 平1(1989)6月12日

⑱考 案 者 藤井 篤夫 広島県広島市安佐南区高取南1丁目19-52

⑲考 案 者 中島 一 広島県広島市西区小河内町1丁目14-13

⑳出 願 人 油谷重工株式会社 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号

明細書

1. 考案の名称

サンバイザの構造

2. 実用新案登録請求の範囲

(1)運転室内に装備されたサンバイザにおいて、サンバイザを運転室の窓に吸着剥離自在に形成して構成したことを特徴とするサンバイザの構造。

(2)運転室内に装備されたサンバイザにおいて、サンバイザ本体の基板として吸音材を内蔵して構成したことを特徴とするサンバイザの構造。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

この考案は、主として建設機械など車両の運転室内に装備された日光遮蔽用サンバイザに関する

従来技術

従来技術のサンバイザ（図示はない）は、装着位置固定の状態で装備されている。また従来技術サンバイザは、吸音機能をそなえていない。

この考案の解決すべき課題

運転室には、周囲にガラス窓が設けられている

公開実用平成 3-8016



そのために、運転者の目に直射日光が入ってくることが多い。

従来技術のサンバイザは装置位置固定の状態で装備され、またサンバイザ自体に吸音機能をそなえていない。そのためにたとえば建設機械が旋回操作を行いながら作業を行っているときなど、運転者の目に度々直射日光が入ってきた。同時に、運転室内にはエンジン騒音などが伝播侵入していくので、運転者は不快になるとともに、運転操作にも悪影響をおよぼしていた。

この考案は上記の課題を解決し、運転室内の所要のガラス窓位置にワンタッチ操作で吸着または剥離ができ、さらに騒音吸音機能を有するサンバイザを提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

上記の課題を解決するために講じたこの考案の手段は、

- イ. サンバイザを運転室のガラス窓位置に吸着剝離自在に形成し、
- ロ. サンバイザ本体の基板として、吸音機能を有

する吸音材を内蔵して構成した。

作　　用

イ. サンバイザを運転室のガラス窓位置に吸着剝離自在に形成したので、運転者はワンタッチ操作で上記サンバイザを書房のガラス窓位置に取付けることができる。

ロ. サンバイザ本体の基板として吸音材を用いたので、運転室内に伝播侵入してきたエンジン騒音などの一部が吸音される。それにより、運転室内の騒音は低減される。

実　　施　　例

以下、この考案の実施例を図面を基づいて詳細に説明する。第1図は、この考案にかかるサンバイザ1を装備した運転室2の一部切欠き側面図である。図において、3は運転席、4、5、6、7、8はそれぞれガラス窓、9は天窓である。第2図は、第1図のA-Aより見たサンバイザ1の断面図である。図において、10はサンバイザ1のサンバイザ本体、11はサンバイザ本体10の基板である吸音材、12は緩衝材、13は表皮部材、

公開実用平成3-8016



14は吸着盤である。第3図は、サンバイザ1の変形例であるサンバイザ15の断面図である。サンバイザ15では、吸音材11'の層厚Tを大きくして、吸音効果を増大させるようにしている。

次に、この考案にかかるサンバイザ1の構成を第1図および第2図について述べる。サンバイザ1を運転室2のガラス窓位置に、吸着盤14により吸着剥離できるように形成した。そして、サンバイザ本体10の基板として、吸音機能を有する吸音材11を内蔵して構成した。

次に、この考案にかかるサンバイザ1の作用機能について述べる。サンバイザ1を運転室2のガラス窓位置に吸着剥離自在に形成したので、運転者はワンタッチ操作で上記サンバイザ1を所望のガラス窓位置に取付けることができる。また、サンバイザ本体10の基板として吸音材11を用いたので、運転室2内に伝播侵入してきたエンジン騒音などの一部が、上記吸音材11にて吸音される。それにより、運転室2内の騒音は低減される。

なお第4図は、この考案の他実施例サンバイザ

16を示す正面図である。図において、17はサンバイザ16のサンバイザ本体、18はサンバイザ本体を回動できるように取付けているレバー部材、19は吸着盤である。サンバイザ16では、サンバイザ本体17をレバー部材18を介して吸着せしめるようにしている。そして、レバー部材18のイ部軸心を中心として、サンバイザ本体17の向きを回動調整できるようにしている。

考案の効果

この考案にかかるサンバイザでは、サンバイザを運転室のガラス窓位置に吸着剝離自在に形成しサンバイザ本体の基板として、吸音機能を有する吸音材を内蔵して構成した。それにより、運転者はワンタッチ操作で上記サンバイザを所望のガラス窓位置に取付け、日光が目に入るのを防止することができる。また、サンバイザ本体に内蔵した吸音材が運転室内に伝播侵入してきたエンジン騒音などの一部を吸音するので、運転室内騒音にもとづく運転者の不快感を軽減させることができる。

したがって、この考案にかかるサンバイザをそ

公開実用平成 3-8016



なえた建設機械など車両では、運転者の運転居住性を向上させる。

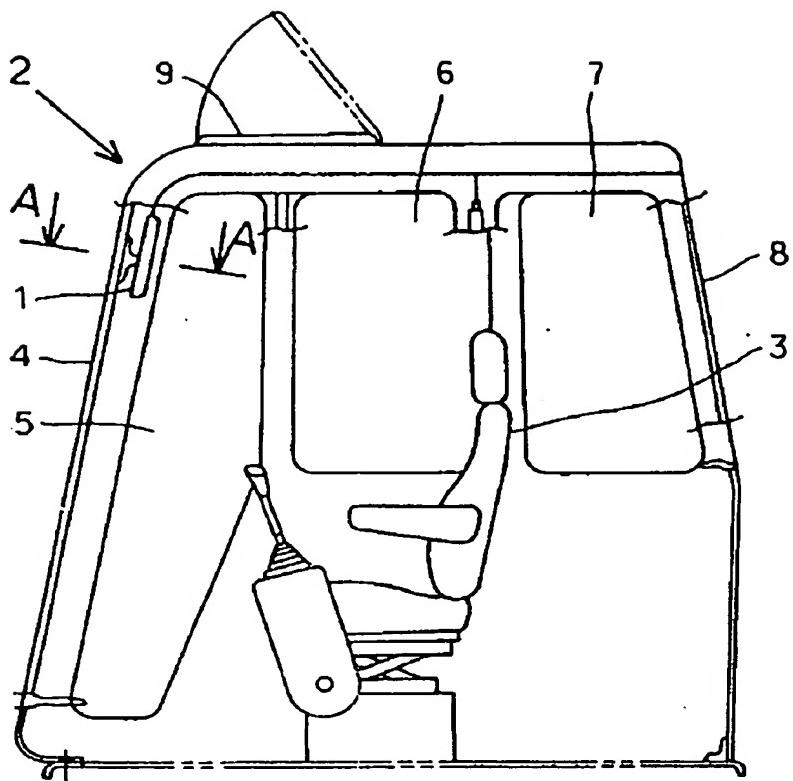
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案にかかるサンバイザを装備した運転室の一部切欠き側面図、第2図は第1図のA-Aより見たサンバイザの断面図、第3図は第2図におけるサンバイザの変形例を示す断面図、第4図はこの考案の他実施例サンバイザを示す正面図である。

- 1, 15, 16 -----サンバイザ
- 2 -----運転室
- 4, ~, 8 -----ガラス窓
- 10, 17 -----サンバイザ本体
- 11, 11' -----吸音材
- 14, 19 -----吸着盤
- 18 -----レバー部材

以 上

実用新案登録出願人
油谷重工株式会社

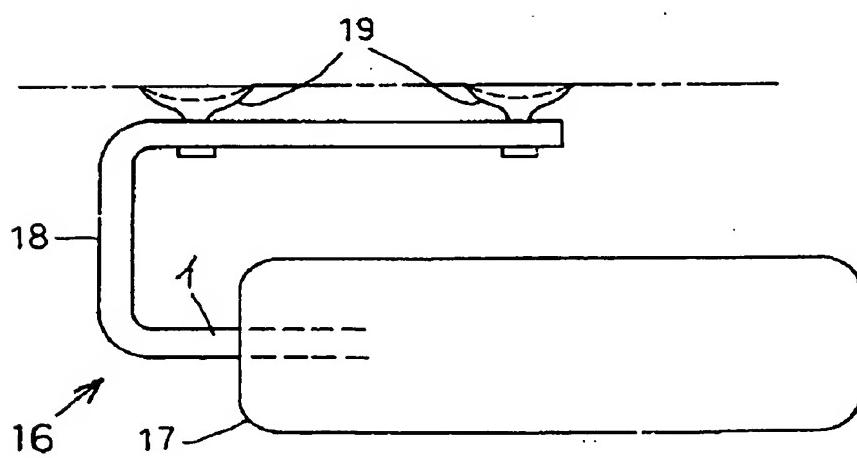
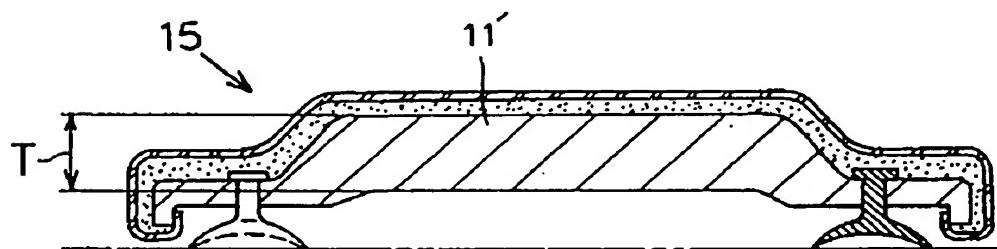
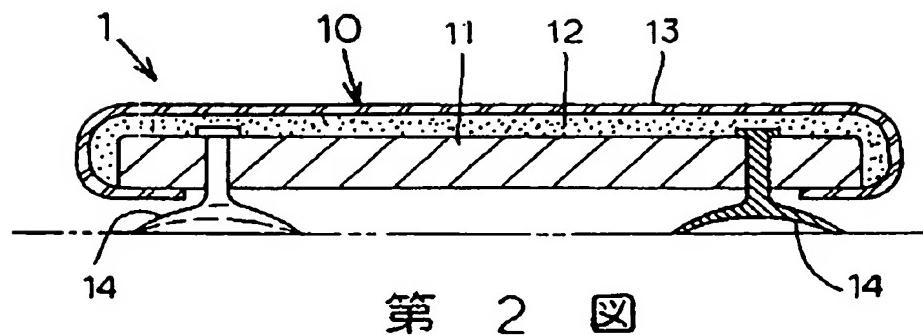


第 1 図

218
実開3-8016

实用新案登録出願人
油谷重工株式会社

公開実用平成 3-8016



219
実用3-8016
実用新案登録出願人
油谷重工株式会社